

環境配慮型ブロック

緑遊 2

5分勾配専用!

中空型空積みタイプ



石川県リサイクル認定製品 認定番号：第160号
【環境配慮型大型水平積ブロック】KCF-緑遊シリーズ



【標準】奥能登土木 山田川災害復旧工事



【標準】能登町 寺分川災害復旧工事



【魚巢】南加賀土木 郷谷川災害復旧工事



【空練】中能登土木 福浦港中島線（日用川）

 共和コンクリート工業株式会社

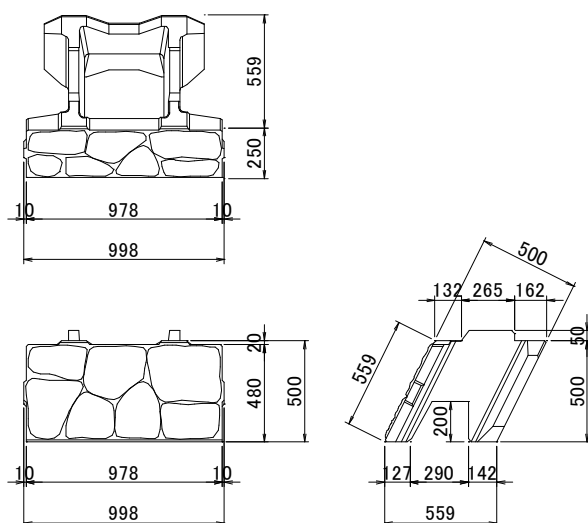
北陸支店 石川営業所

控え35cm練積相当の空積擁壁、豊富なバリエーションを揃えました。

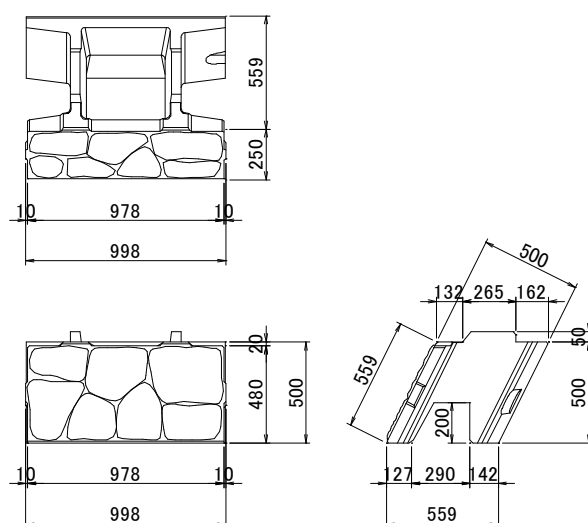
- 従来の空石積工に近い隙間や空隙および景観性を持った標準タイプ。
- 裏込コンクリートの打設に配慮した空練タイプ。
- 水生生物や稚魚に配慮した稚魚タイプ。
- 中型程度までの成魚に配慮した完全空洞型の魚巣タイプ。

規格諸元

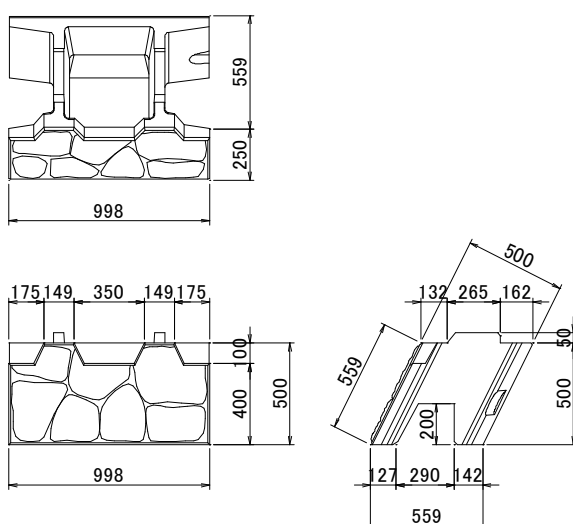
標準タイプ



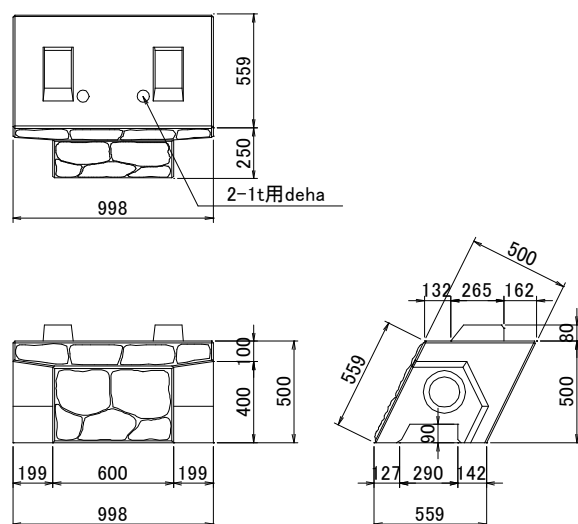
空練タイプ（裏当対応）



稚魚タイプ



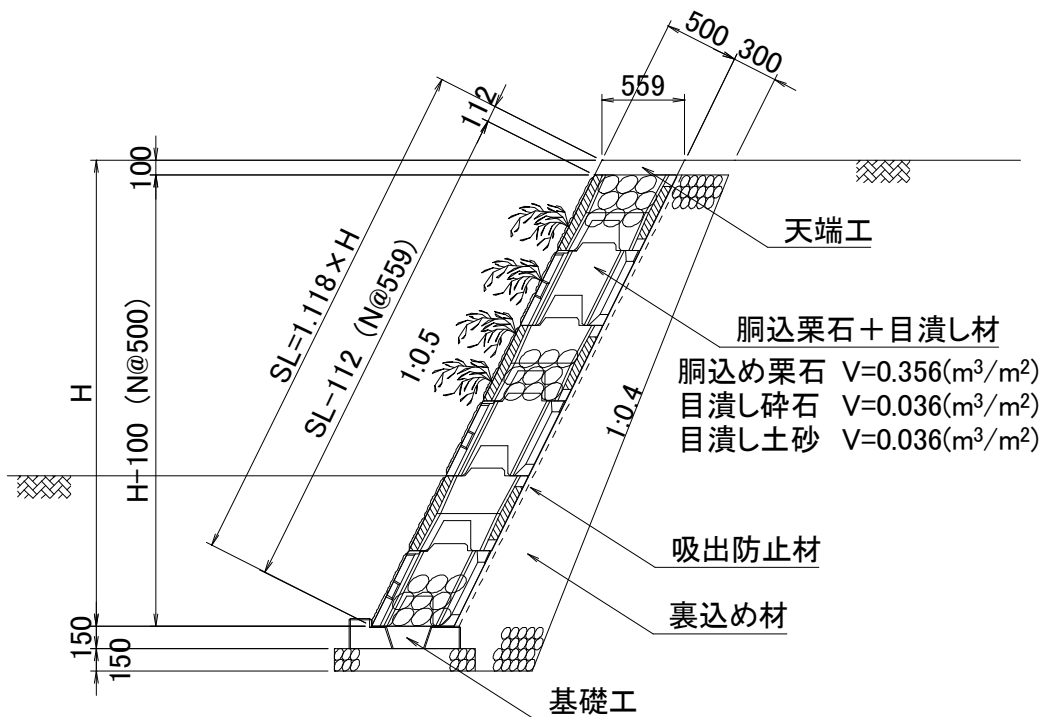
魚巣タイプ



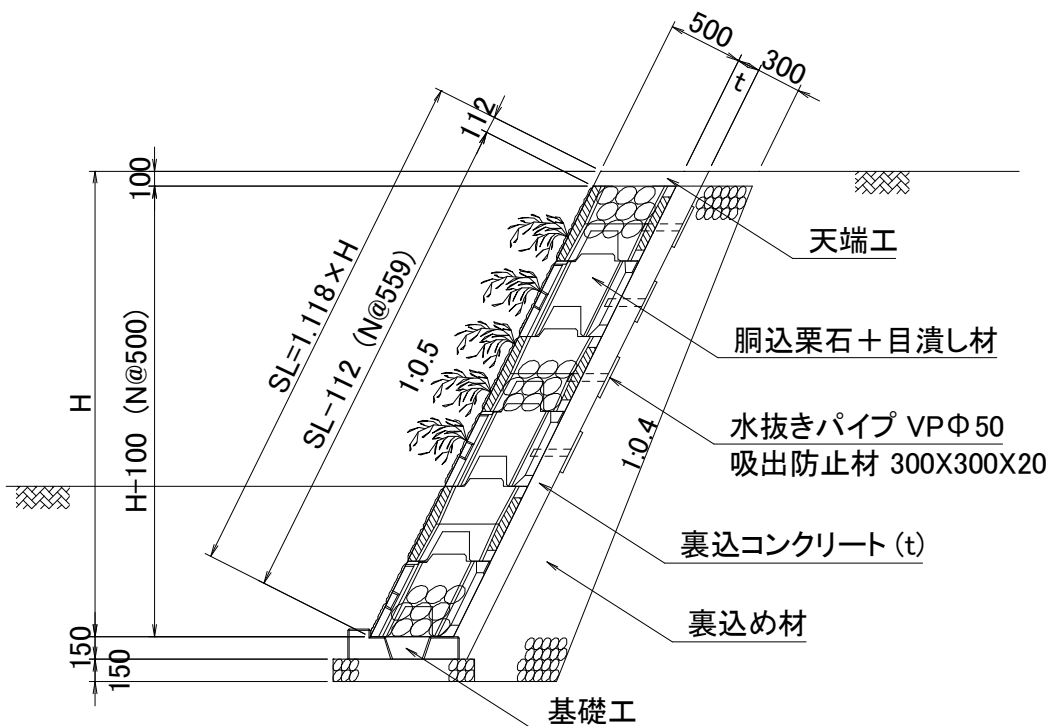
呼び名 (控え50)	規格寸法 (mm)	参考質量 (kg/個)	胴込栗石 (m ³ /個)	目潰し材 (m ³ /個)	備 考
標 準	559×998×500	190	0.199	0.040	<ul style="list-style-type: none"> ・半割あります。 ・目潰し材は胴込栗石量の20%とします。 ・同一意匠の化粧型枠あります。
空 練	559×998×500	205	0.189	0.038	
稚 魚	559×998×500	197	0.189	0.038	
魚 巣	559×998×500	452	—	—	

標準断面

◇裏込コンクリート無しの場合



◇裏込コンクリート有りの場合

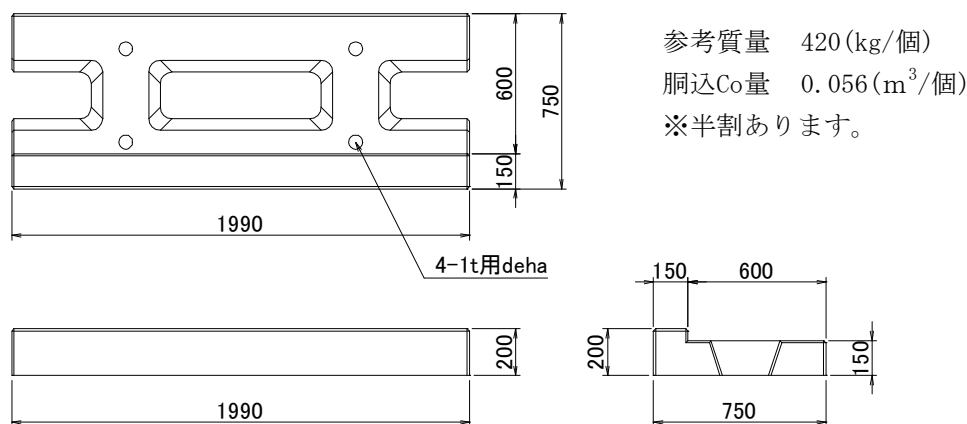


Technical cross-section diagram of a fish trap structure. The diagram shows a sloped trap body with a vertical height H and a horizontal width of 100 units. The trap body is composed of layers: 天端工 (top layer), 胴込栗石+目潰し材 (middle layer), 胴込め栗石 (inner layer), 目潰し碎石 (crushed stones), 目潰し土砂 (crushed soil/sand), 魚巢タイプ (fish nest type), 吸出防止材 (anti-suction material), and 裏込め材 (backfill material). The trap body is supported by a 基礎工 (foundation). Dimensions include a slope of 1:0.5, a length of 112 units, a width of 559 units, and a total length of 500 units. A formula $SL=1.118 \times H$ is provided for the length. A table on the right lists the volume of materials: 胴込め栗石 $V=0.356(\text{m}^3/\text{m}^2)$, 目潰し碎石 $V=0.036(\text{m}^3/\text{m}^2)$, and 目潰し土砂 $V=0.036(\text{m}^3/\text{m}^2)$.

魚巢開口の下段ブロック胴込材料の流出を防止するために施します。厚さは10cm程度とし、胴込めに用いる栗石等で植石することで、より一層生態系に配慮することが出来ます。

基礎工

□ 形状図 - 1

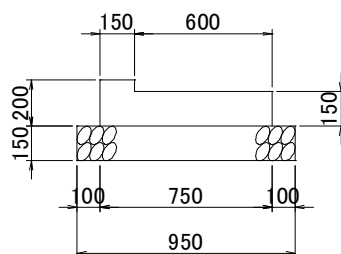


プレキャスト基礎工

10m当り

名 称	計 算 式	単位	数 量
基礎ブロック	$10.0 \div 2$	個	5.00
胴込コンクリート	0.056×5	m³	0.28
基礎碎石	0.95×10.0	m²	9.50

■ 形状図 - 2

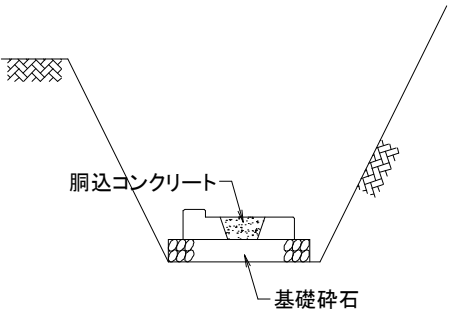
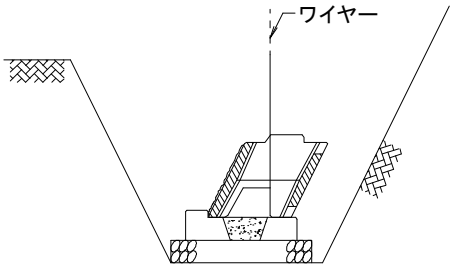
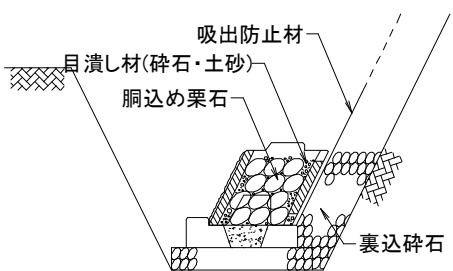


現場打基礎工

10m当り

名 称	計 算 式	単位	数 量
基礎コンクリート	$(0.20 \times 0.15 + 0.15 \times 0.60) \times 10.0$	m³	1.20
型枠	$0.20 \times 2 \times 10.0$	m³	4.00
基礎碎石	0.95×10.0	m²	9.50

施工手順

説 明	概 要 図
<p>【 1 】</p> <p>設計書に基づき床掘りを行い、基礎材を十分に敷設し、所定位置に基礎コンクリートの打設を行います。</p> <p>※岩着の場合は基礎工を設けずに均し基礎を施します。</p>	
<p>【 2 】</p> <p>ワイヤーを用いて、クレーンで吊上げ静かに基礎コンクリートの所定位置に据付けを行います。</p> <p>※ワイヤーで胴巻きにします。</p> <p>※ブロック背面全面に吸出防止材を設置します。</p>	
<p>【 3 】</p> <p>1段目の配列が終わったら、吸出防止材の設置、胴込栗石の投入、間隙部に目潰し材を十分に投入締固め、定められた厚さに裏込材設置を行います。</p> <p>※目潰し材は胴込栗石量の20%とし、砕石と土砂を1：1の割合で、土砂は緑化基盤材として使用します。</p>	
<p>【 4 】</p> <p>所定の積上げ段数に至るまで作業2～3を繰返し行います。最後に天端工は型枠を設置し天端コンクリートを打設し、擁壁の構築を完了します。</p> <p>※ブロック噛合せ部には遊びがあるので小石等を挟み込み転圧等によるズレ止めを行います。</p>	